

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
国語 A	平成18年度	石谷 春樹	1	通年	2	必

[授業の目標]

本科目は、高等専門学校での国語の基礎能力を「現代文・表現」の分野を中心に身につけさせる。具体的には、第1学年の学生として中学校までの学習の復習を含めながら、高専生、そして現代に生きる日本人として必要な近代、現代文学の基礎知識の獲得と、読解力の向上、及び的確な表現能力を養うことを目標にする。

[授業の内容]

すべての内容は学習・教育目標(A)の<視野>及び(C)の<発表>に対応する。

前 期

- 第1週 本授業の概要及び学習内容の説明
- 第2週 随想 出会うという奇跡(1)
- 第3週 随想 出会うという奇跡(2)
- 第4週 随想 出会うという奇跡(3)
- 第5週 詩 樹下の二人
- 第6週 詩 サーカス
- 第7週 表現の扉1 メモからの発想
- 第8週 前期中間試験
- 第9週 前期中間試験の反省
表現の扉2 要約から意見へ
読書感想文の書き方
- 第10週 小説 「城の崎にて」(1)
- 第11週 小説 「城の崎にて」(2)
- 第12週 小説 「城の崎にて」(3)
- 第13週 小説 「城の崎にて」(4)
- 第14週 短歌(1)
- 第15週 短歌(2)

後 期

- 第1週 前期末試験の反省
表現の扉3 調べて発表する
- 第2週 評論 水の東西(1)
- 第3週 評論 水の東西(2)
- 第4週 評論 水の東西(3)
- 第5週 表現の扉4 体験を聞く
- 第6週 俳句(1)
- 第7週 俳句(2)
- 第8週 後期中間試験
- 第9週 後期中間試験の反省
表現の扉5 話し合いから文章へ
- 第10週 小説 「羅生門」(1)
- 第11週 小説 「羅生門」(2)
- 第12週 小説 「羅生門」(3)
- 第13週 小説 「羅生門」(4)
- 第14週 小説 「羅生門」(5)
- 第15週 小説 「羅生門」(6)
年間授業のまとめ、

授業科目名	開講年度	担当教官名	学年	開講期	単位数	必・選
国語 A(つづき)	平成18年度	石谷 春樹	1	通年	2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>(随想「出会うという奇跡」)</p> <p>1、随想の特色を理解する。</p> <p>2、筆者のいう「奇跡」とは何かを考える。</p> <p>3、「奇跡」について話し合う。</p> <p>(詩「樹下の二人」・「サーカス」)</p> <p>1、詩の言葉のもつ重みや、表現の特色を理解する。</p> <p>2、詩歌教材をヒントにして、自らの心情を作品として表現することができる。</p> <p>3、詩を読んで、感じ取ったことを自由に話し合う。</p> <p>(小説「城の崎にて」)</p> <p>1、作品・作者に関する文学史的知識を身につけ、作品が書かれた時代背景について理解を深める。</p> <p>2、読解後、自分なりの感想を文章にまとめることができる。</p> <p>(短歌)</p> <p>1、作者の扱っている題材やテーマを理解する。</p> <p>2、短歌に親しみ、豊かな感性を養う。</p> <p>3、創作の喜びと難しさを知る。</p> <p>(評論「水の東西」)</p> <p>1、各段落、および全体の要旨をまとめることができる。</p> <p>2、作者の表現意図を理解し、論理の展開を把握することができる。</p> <p>3、自分の考えや意見をまとめることができる。</p>	<p>(俳句)</p> <p>1、俳句の言葉のもつ重みや、表現の特色を理解する。</p> <p>2、俳句に親しみ、豊かな感性を養う。</p> <p>(小説「羅生門」)</p> <p>1、主人公「下人」の心理描写およびを主題について考える。</p> <p>2、あらすじを把握し、登場人物の心情・行動を理解することができる。</p> <p>3、作品を読み、関心を持った事柄で感想文を書く。</p> <p>4、日本文学を学ぶ意義を考える。</p> <p>(前期・後期「漢字・語彙力の習得」)</p> <p>1、「三訂版 漢字とことば 常用漢字アルファ」を使用し、それぞれの範囲の漢字小テストに取り組む。</p> <p>2、これらの学習を通して文部科学省認定の「日本漢字能力検定試験」の全員受検を義務づけ、「4級」合格を目指す。</p> <p>3、「4級」取得済みの者は、さらに上級を目指す。</p> <p>(前期・後期「表現力の習得」)</p> <p>1、自分の意見を言う練習としてスピーチをする。また、聞く側はコメントカードに記入し、よりよい表現を身につける。</p> <p>2、要約文、意見文の書き方を身につける。</p> <p>3、読書感想文の書き方を学習して、感想文を完成させる。</p> <p>4、短歌を創作することにより、自らの心情を作品として表現する。</p> <p>5、討論やディベートを行い、自分の意見を公の言葉で表現する。</p>
<p>[注意事項] 授業中は学習に集中し、内容に対して積極的に取り組むこと。疑問が生じたら直ちに質問すること。また、課題は期限厳守提出すること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>中学校卒業程度の国語の知識および能力を身につけていることが必要である。</p>	
<p>[レポート等]</p> <p>読書感想文(夏季休業中の課題)、漢字自主学习ノート、スピーチ原稿の提出。その他理解を深めるため演習課題を与える。</p>	
<p>教科書：「国語総合」(筑摩書房)</p> <p>参考書：「増補四訂カラー版 新国語便覧」(第一学習社)、「三訂版漢字とことば 常用漢字アルファ」(桐原書店)、「国語表現活動マニュアル」中村 明 川本信幹 監修(明治書院)、学校指定の電子辞書</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間・前期末・後期中間・学年末の4回の試験の平均点を60%、課題20%、小テストの結果を20%として評価する。ただし、前期中間・前期末・後期中間・学年末試験ともに再試験を行わない。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>前期中間・前期末・後期中間・学年末の4回の試験、課題、小テストにより、学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教官名	学年	開講期	単位数	必・選
国語 B	平成18年度	西岡将美	1	通年	2	必

[授業の目標]

本科目は、高等専門学校での国語の基礎能力を「古文・漢文」の分野を中心に身につけさせるとともに、「古典」学習の意義（(1)まず、当時の人々の考え方、生き方を知ることができる。(2)そして、古典を通じて現代の自分たちの生活、考え方、生き方を捉えなおすことができる。）を再確認する。具体的には、第1学年の学生として中学校までの学習の復習を含めながら、高専生、そして現代に生きる日本人として必要な古典文学の基礎知識の獲得と、読解力の向上を目指すことを目標にする。

[授業の内容]

すべての内容は学習・教育目標（A）の〈視野〉〈意欲〉、及び（C）の〈発表〉に対応する。

前期

- 第1週 古文入門 「古典の森へ」
古文入門(説話)「児のそら寝」(「宇治拾遺物語」)
(歴史的仮名遣い、「いろは歌」を学ぶ)
- 第2週 古文入門(説話)「児のそら寝」(「宇治拾遺物語」)
(古典文法の基礎学習 「品詞」の分類)
- 第3週 古文入門(説話)「児のそら寝」(「宇治拾遺物語」)
(古典文法の基礎学習 「品詞」の分類)
- 第4週 古文入門(作り物語)「かぐや姫」(「竹取物語」)
(古典文法の基礎学習 「用言」の学習)
- 第5週 古文入門(作り物語)「かぐや姫」(「竹取物語」)
(古典文法の基礎学習 「用言」活用の学習)
- 第6週 古文・随筆「つれづれなるままに」(徒然草)
(古典文法の基礎学習 「係り結びの法則」の学習)
- 第7週 古文・随筆「ある人、弓を射ることを習ふに」(徒然草)
(古典文法の基礎学習 「係り結びの法則」の学習)
- 第8週 前期中間試験
- 第9週 前期中間試験の反省
漢文入門 「漢文を学ぶために」
訓読入門 「名言」(「返り点」の学習)
- 第10週 訓読入門 「名言」(「返り点」の学習)
- 第11週 訓読入門 「名言」(「返読文字」の学習)
- 第12週 訓読入門 「名言」(「再読文字」「助字」の学習)
(書き下し文の作成)
- 第13週 古文・歌物語「東下り」(伊勢物語)
(「歌物語」の作品の読み方)
- 第14週 古文・歌物語「東下り」(伊勢物語)
(「歌物語」の作品の読み方)
- 第15週 古文・歌物語「東下り」(伊勢物語)
(「歌物語」の作品の読み方)

後期

- 第1週 前期末試験の反省
漢文・故事「矛盾」(韓非子の学習)
- 第2週 漢文・故事「矛盾」(韓非子の学習)・「朝三暮四」
(列子の学習)
- 第3週 漢文・故事「朝三暮四」(列子の学習)
- 第4週 古文・紀行文「序・旅立ち」(奥の細道)
(作者の人生観・表現上の特徴・俳諧の鑑賞)
- 第5週 古文・紀行文「序・旅立ち」(奥の細道)
(作者の人生観・表現上の特徴・俳諧の鑑賞)
- 第6週 古文・紀行文「平泉」(奥の細道)
(表現上の特徴・俳諧の鑑賞・漢詩)
- 第7週 古文・紀行文「平泉」(奥の細道)
(表現上の特徴・俳諧の鑑賞・漢詩)
- 第8週 後期中間試験
- 第9週 後期中間試験の反省
古文・和歌「小倉百人一首」(「歌枕」の学習)
- 第10週 古文・和歌「小倉百人一首」(「歌がるた」競技)
- 第11週 古文・和歌「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」
(四季の歌)(表現の特徴・修辞・鑑賞)
- 第12週 古文・和歌「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」
(四季の歌)(表現の特徴・修辞・鑑賞)
- 第13週 漢文・論語の世界「孔子のことば」(「学問」)
- 第14週 漢文・論語の世界「孔子のことば」(「人生」)
- 第15週 漢文・論語の世界「孔子のことば」(「人生」)
年間授業のまとめ・アンケート(感想)実施・提出

授業科目名	開講年度	担当教官名	学年	開講期	単位数	必・選
国語 B(つづき)	平成18年度	西岡将美	1	通年	2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>前期</p> <p>(古文入門) (「宇治拾遺物語」「竹取物語」)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、現代文との違いに注意しながら、古文に慣れる。 2、古文を読むための基礎をしっかりと身につける。 3、登場人物の心理に注目して、古文の世界に親しむ。 <p>(古文・随筆) (「徒然草」)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、古文の内容を正確に理解する力を養う。 2、文語文法について、主に用言に関する知識を習得する。 3、「徒然草」の人間観察の深さ、ユニークさを味わう。 <p>(漢文入門) (訓読の基礎・「名言」)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、漢文の特色を学び、漢文に慣れる。 2、漢文訓読の基礎(訓点・書き下し文)をしっかりと身につける。 3、名言と故事を読み、漢文の世界に親しむ。 <p>(古文・歌物語)「伊勢物語」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、歌物語としての「伊勢物語」の特色を味わう。 2、漢文独特の語彙の読み方・意味を正確に習得する。 3、教材文を適切な現代語に訳し、登場人物や作者の心情についてよく理解することができる。 	<p>後期</p> <p>(漢文・「故事」)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、漢文の内容を正確に理解する力を養う。 2、漢文について、訓読や書き下し文の基礎的な知識を習得する。 3、古代の中国の人々の生き方について考える。 <p>(古文・紀行) (「奥の細道」)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、作品の内容を理解し、鑑賞する力を養う。 2、「奥の細道」の作者に関する文学史的な知識を身につける。 3、「奥の細道」の文体を味わい、名文を暗唱する。 <p>(古文・和歌) (「小倉百人一首」・「万葉集」・「古今和歌集」・「新古今和歌集」)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、和歌の表現の特色(修辞技巧)を学び、それぞれの和歌に詠まれた情景や心情について味わう。 2、日本人の美意識や感受性の伝統について考えを深める。 3、それぞれの作品や作者に関する文学史的な知識を身につける。 <p>(漢文・思想) (「孔子のことば」)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、孔子の思想の特色や考えを理解する。 2、語句の用法や語義に注意し、語彙を豊かにする。 3、日本文化への影響と現代的意義について考える。
<p>[注意事項] 授業中は学習に集中し、内容に対して積極的に取り組むこと。疑問が生じたら直ちに質問すること。また、課題は期限厳守提出すること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>中学校卒業程度の国語能力、特に「古文・漢文」についての基礎学力を身につけていることを前提とする。</p>	
<p>[レポート等]</p> <p>理解を深めるため、随時、演習課題を与える。また古典文法等に関する小テスト、古典名文の暗唱テスト、ノート提出等を課する。</p>	
<p>教科書：「国語総合」(筑摩書房)</p> <p>参考書：「増補四訂カラー版 新国語便覧」(第一学習社)、「楽しく学べる基礎からの古典文法」(第一学習社)、電子辞書、</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間・前期末・後期中間・学年末の4回の試験の平均点を60%、課題(レポート)20%、小テストの結果を20%として評価する。ただし、前期中間・前期末・後期中間・学年末試験ともに再試験を行わない。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を修得すること。</p>	

授業科目名	開設年度	担当教官名	学年	開講期	単位数	必・選
世界史	平成 18 年度	小倉 正昭	1	通年	2	必

[授業の目標]

1. 人類の歴史文化遺産に親しみ、国際人としての教養を身につける。
2. 人類や社会の進歩発展の過程や諸文明の盛衰の原因を考察する。

[授業の内容] すべての内容は、教育・学習目標(A)<視野>に対応する。

前期

- 第 1 週 授業の概説 世界史概論
- 第 2 週 原始社会 1
- 第 3 週 原始社会 2
- 第 4 週 オリент文明 1
- 第 5 週 オリент文明 2
- 第 6 週 オリент文明 3
- 第 7 週 オリент文明 4
- 第 8 週 中間試験
- 第 9 週 地中海文明 1
- 第 10 週 地中海文明 2
- 第 11 週 地中海文明 3
- 第 12 週 地中海文明 4
- 第 13 週 地中海文明 5
- 第 14 週 インド文明 1
- 第 15 週 インド文明 2

後期

- 第 1 週 中国文明 1
- 第 2 週 中国文明 2
- 第 3 週 中国文明 3
- 第 4 週 秦漢時代 1
- 第 5 週 秦漢時代 2
- 第 6 週 秦漢時代 3
- 第 7 週 秦漢時代 4
- 第 8 週 中間試験
- 第 9 週 南北朝時代 1
- 第 10 週 南北朝時代 2
- 第 11 週 隋唐時代 1
- 第 12 週 隋唐時代 2
- 第 13 週 宋元時代 1
- 第 14 週 宋元時代 2
- 第 15 週 宋元時代 3

授業科目名	開設年度	担当教官名	学年	開講期	単位数	必・選
世界史(つづき)	平成18年度	小倉 正昭	1	通年	2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 農耕・牧畜の開始で原始社会の状態から国家の発生がよく理解できる。 2. オリエントの専制国家の状態が理解できる。 3. アテネの民主政治の特徴が理解できる。 4. ローマ帝国とキリスト教の関係が理解できる。 5. 仏教の成立背景が理解できる。 6. 秦漢時代に中国文明が成立したことが理解できる。 7. 中国の貴族政治の状態が理解できる。 8. 宋代に中国の近世が成立したことが理解できる。 <p>(全体として)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 今日の世界の国々の様々な特色ある姿は、過去の歴史的な特色ある活動蓄積から生まれてきたことを理解できる。 2. 過去の様々な人間の歴史的行為は、現代人の鑑であることが理解できる。 3. 過去の歴史が身近に存在することが理解できる。 	
<p>[注意事項] 新聞、テレビニュース等も教材として随時利用する。また「世界史図説」は授業に必ず携帯すること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 今日、世界で生起している歴史的イベントに関心を寄せておくこと。</p>	
<p>[レポート等] 特になし。</p>	
<p>教科書：「新編 世界の歴史」北村正義編(学術図書出版社) 参考書：「総合新世界史図説」帝国書院編集部編(帝国書院)</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間試験、前期末試験、後期中間試験、学年末試験の4つの試験の平均点で評価する。前期中間試験、前期末試験、後期中間試験については、60点未満の者は、再試験をして60点を上限として評価する。</p> <p>[単位修得条件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
基礎数学	平成18年度	佐波 学	1	通年	2	必

[授業の目標]

数学の基礎となる概念や理論を学び、数と式、等式と不等式、関数、個数の処理について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図るとともに、それらを的確に活用する能力を伸ばすことを目的とする。

[授業の内容]

全ての内容は、学習・教育目標 (B) <基礎>に対応する。

前期

(数と式)

第1週 授業の概要、整式の次数と係数、加法と減法

第2週 整式の乗法・展開

第3週 整式の因数分解

第4週 いろいろな因数分解

第5週 整式の除法

第6週 整式の約数・倍数

第7週 有理式の加減乗除

第8週 前期中間試験

第9週 繁分数式

第10週 実数の分類、実数の大小関係、絶対値

第11週 平方根と根号、根号を含む式の計算

(等式と不等式)

第12週 集合

第13週 命題

第14週 背理法

第15週 恒等式

後期

(等式と不等式)

第1週 因数定理、3次以上の式の因数分解

第2週 高次方程式

第3週 高次不等式

第4週 等式・不等式の証明

(関数)

第5週 関数のグラフの平行移動・対称移動

第6週 べき関数、

第7週 分数関数

第8週 後期中間試験

第9週 無理関数

第10週 グラフを用いた方程式・不等式の解法

第11週 絶対値の入った方程式・不等式

第12週 逆関数

(個数の処理)

第13週 場合の数、順列

第14週 組合せ、

第15週 2項定理

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
基礎数学（つづき）	平成18年	佐波 学	1	通年	2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 整式の次数を理解し、加法・減法・乗法・除法ができる。 2. 整式の展開・因数分解ができる。 3. 整式の倍数・約数の意味を理解している。 4. 有理式の通分・約分・加法・減法・乗法・除法ができる。 5. 実数の分類ができ、それぞれの具体例を挙げることができる。 6. 2つの実数の大小がもう一つの数をたしたりかけたりした時どう変化するかを理解している。 7. 絶対値の意味を理解し、簡単な計算ができる。 8. 平方根とルートの違いを理解し分母の有理化等ルートを含む数式の計算ができる。 9. 集合と命題についての基本的な考え方を理解している。 10. 恒等式と方程式の違いを理解し、恒等式であるための条件を求めることができる。 11. 剰余の定理・因数定理の意味を理解し、これらの定理を用いて高次方程式や不等式を解くことができる。 12. 等式・不等式の証明ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 13. 関数の平行移動、対称移動の意味を理解し、移動したグラフの方程式を求めることができる。 14. 分数関数や無理関数のグラフを描くことができる。 15. 無理方程式・分数方程式を解くことができる。 16. 逆関数の定義と性質を理解し、求めることができる。 17. グラフを用いて、方程式・不等式を解くことができる。 18. 逆関数の意味を理解し、逆関数の方程式を求めること、グラフを描くことができる。 19. 場合の数、順列・組合せについて理解し、それらを求めることができる。 20. 二項定理を用いて、式を展開すること、係数を求めることができる。
<p>[注意事項] 定期試験直前の学習だけでなく、日常から予習・復習をすること。理解できなかった部分については、参考書を見たり担当教官等に質問するなどして、しっかり理解してから次の授業に臨むこと。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 中学で学んだ数学の知識を必要とする。特に、因数分解、2次方程式、ルートを含む式の計算を復習しておくこと。</p>	
<p>[レポート等] 夏季休業中の課題のほか、授業時にも適宜レポートを課します。また、成績不振学生に対しては、再試験やレポートなどを課します。</p>	
<p>教科書：「高専の数学1」（森北出版） 問題集：「新編高専の数学1問題集」（森北出版） 参考書：「高数への準備演習」（数研出版）、「チャート式 数学 +A」、「同数学 +B」（数研出版）白色チャートを推奨しますが、何色でも構いません。「数学入門<上>」遠山啓（岩波書店）</p>	
<p>「学業成績の評価方法」 前期中間・前期末・後期中間・後期末の4回の試験の他、入学前に配布する「高数への準備演習」等から出題する小テスト、レポート・宿題等の内容、及び、出席状況等を総合的に判断し、100点満点で評価する。 「単位修得要件」 学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
基礎数学	平成18年度	大貫 洋介	1	通年	2	必

[授業の目標]

工学において基本的な関数である二次関数、指数関数、対数関数について学びます。特に二次式については、二次関数とそのグラフ・二次方程式・二次不等式などを系統的に理解し、自在に扱えるだけの学力をつける事を目指します。指数・対数については、まずその定義や性質をしっかりと理解し、それらの関数のグラフやその応用等を理解・習得してもらいます。

[授業の内容]

全ての内容は、学習・教育目標 (B) <基礎> に対応する。

前期

第1週 授業の概要

関数、座標平面とグラフ、二次関数

第2週 標準形で表された二次関数とグラフの平行移動

第3週 一般の二次関数を標準形へ変形させる方法 (平方完成)

第4週 二次関数の最大値・最小値の求め方

第5週 二次方程式、その解の公式の導き方

第6週 負の数の平方根としての虚数の発見、二次方程式の解の公式と虚数解

第7週 虚数単位と複素数、複素数の四則演算、複素平面、共役複素数と絶対値

第8週 前期中間試験

第9週 二次式の判別式、二次方程式の解の判別

第10週 解と係数の関係とその応用

第11週 解の公式を利用した二次式の因数分解

第12週 二次関数のグラフと x 軸との共有点の個数を判別式を用いて調べる

第13週 放物線と直線が接するための条件、交わるための条件

第14週 二次不等式、そのグラフによる解法

第15週 二次不等式(解が全実数になったり解なしになる場合)

後期

第1週 連立一次不等式、絶対値記号のある不等式

第2週 連立二次不等式

第3週 指数が自然数の場合の指数法則、べき関数のグラフ、累乗根とその根号が持つ性質

第4週 指数の整数への拡張と指数法則

第5週 指数の有理数への拡張と指数法則

第6週 拡張された指数の定義や指数法則に慣れるための問題演習

第7週 正の数の累乗、指数の大小関係、

第8週 後期中間試験

第9週 指数関数の定義とそのグラフ、指数方程式

第10週 対数の定義とその例

第11週 対数の性質、底の変換公式

第12週 対数関数の定義とそのグラフ

第13週 対数の大小の比較、対数方程式・不等式

第14週 常用対数、対数表を用いた数値計算の方法

第15週 対数に関するいろいろな問題演習

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
基礎数学（つづき）	平成18年度	大貫 洋介	1	通年	2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実数に対し実数に対応させる操作である関数の概念を把握している。 2. グラフを平行移動させるために、関数の変数 x、y にどんな操作をしたらよいか理解している。 3. 二次関数の標準形への変形（平方完成）が具体例でなら確実にでき、そのグラフをかくことができる。 4. 二次方程式の解の公式の証明が理解でき、解の公式を記憶しまた使える。 5. 複素数の四則演算ができ、複素平面の意味を理解している。 6. 二次関数のグラフと二次式の判別式との関係を理解している。また、二次方程式の解の判別が正確に行える。 7. 二次不等式をグラフを用いて解くことができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 8. 拡張された指数の定義を理解し、指数法則が正しく使える。 9. 対数の記号の意味を理解し、その計算を行うことができる。 10. 指数・対数を用いたいろいろな計算ができると共に、指数関数・対数関数が必要な実際の問題にそれを応用できる。 11. 指数関数・対数関数のグラフをかくことができる。 12. 指数や対数の入った方程式・不等式を解くことができる。
<p>[注意事項] 積極的な取り組みを期待する。疑問点は授業中・放課後に質問するなどして、よく理解してから次の授業に臨むこと。授業中にも問題演習は行うが、内容を理解したら教科書・問題集の問題をたくさん解くように努力して欲しい。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 二次式の展開・因数分解、指数が自然数の場合の指数法則など。</p>	
<p>[レポート等] 長期休暇中の宿題の他、授業時にも適宜レポートを課す。各定期試験の成績不振者には再試験やレポートを課す。</p>	
<p>教科書：高専の数学1（森北出版）および高専の数学3（森北出版）11章「複素数」の一部（プリントとして配布） 参考書：チャート式 数学 +A、数学 +B（数研出版）白色チャートを推奨しますが、より意欲のある人は何色でも構いません。</p>	
<p>「学業成績の評価方法」 前期中間・前期末・後期中間・後期末の4回の試験の他、随時実施する小テスト、レポート・宿題等の内容、及び授業への取り組み姿勢を総合的に判断し、100点満点で評価する。</p> <p>「単位修得要件」 学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
基礎数学	平成18年度	伊藤 清	1	通年	2	必

[授業の目標]

直線や円の方程式、三角関数を知らずして、工学を学ぶことはできません。ここでは、その基本的な考え方と事柄を理解し、さらに計算能力を定着させることを目指します。

[授業の内容]

全ての内容は、学習・教育目標 (B) <基礎> に対応する。

前期

第1週 授業の概要

数直線上の点の座標

第2週 座標平面上の2点を内分・外分する点の求め方

第3週 数直線・座標平面上の2点間の距離の求め方、中線定理

第4週 三角形の重心

第5週 座標平面内の直線の方程式

第6週 2つの直線が平行・垂直になるための条件

第7週 円の方程式

第8週 前期中間試験

第9週 円と直線が交わる条件、接する条件

第10週 アポロニウスの円、楕円

第11週 鋭角の三角関数の定義、簡単な応用例

第12週 三角関数の基本的な公式

第13週 一般角、弧度法、扇形の弧長と面積

第14週 一般角の三角関数の定義

第15週 三角関数に慣れるための問題演習

後期

第1週 三角関数の関係式

第2週 三角関数に関するいろいろな等式の証明

第3週 三角関数のグラフ

第4週 周期、奇関数・偶関数、漸近線

第5週 加法定理

第6週 三角関数の合成

第7週 加法定理、三角関数の合成の問題演習

第8週 後期中間試験

第9週 加法定理から導かれるいろいろな公式(倍角の公式、半角の公式)

第10週 加法定理から導かれるいろいろな公式(積を和に直す公式、和・差を積に直す公式)

第11週 三角関数の方程式

第12週 三角関数の不等式

第13週 三角形の面積、正弦定理

第14週 余弦定理、ヘロンの公式、

第15週 楕円・双曲線

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
基礎数学（つづき）	平成18年度	伊藤 清	1	通年	2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平面に座標軸を導入し、2点間の距離や内分点・外分点の座標を求めることができる。三角形の重心の位置を求めることができ、中線定理などの初等幾何の定理を理解できる。 2. x, y の一次方程式が表す直線を描くことができる。逆に直線の図から方程式を導ける。2直線が平行であるための方程式の条件・垂直であるための方程式の条件を使える。 3. 円の方程式から中心と半径を求めることができる。その逆もできる。 4. 円と直線が交わるための条件、接するための条件を、判別式や幾何学的方法を用いて表せる。 5. 鋭角の三角関数の定義を説明でき、簡単な角度に対してその値を求めることができる。 6. 弧度法で表された角を60分法で表せる。その逆もできる。また、扇形の弧長や面積を求めることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 7. 一般角での三角関数の定義を理解して、簡単な角度に対してその値を求めることができる。その逆もできる。 8. 三角関数が満たす基本的な関係式を理解して、それを使うことができる 9. 三角関数のグラフが正確に描ける。 10. 加法定理を記憶して、それから導かれる様々な公式を理解し使用できる。 11. 三角形が与えられたとき、三角関数を使うなどして面積を求めることができる。 12. 正弦定理・余弦定理を記憶して使うことができる。
---	--

[注意事項] 積極的な取り組みを期待する。疑問点は授業中・放課後に質問するなどして、よく理解してから次の授業に臨むこと。授業中にも問題演習は行うが、内容を理解したら教科書・問題集の問題をたくさん解くように努力して欲しい。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 直線の方程式、三平方の定理、三角形の相似、弦に対する円周角が等しい事など。

[レポート等] 長期休暇中の宿題の他、授業時にも適宜レポートを課す。各定期試験の成績不振者には再試験やレポートを課す。

教科書：高専の数学1(森北出版)
 参考書：チャート式 数学 +A、数学 +B(数研出版) 白色チャートを推奨しますが、より意欲のある人は何色でも構いません。

「学業成績の評価方法」 前期中間・前期末・後期中間・後期末の4回の試験の他随時実施する小テスト、レポート・宿題等の内容、及び、出席状況等を総合的に判断し、100点満点で評価する。
 「単位修得要件」 学業成績で60点以上を取得すること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
物理	平成18年度	仲本 朝基	1	通年	2	必

[授業の目標]

物理学は自然現象の基本法則を理解しようとする学問である。各専門学科で勉強する専門科目の基礎となるものである。物理の勉強では、自ら考え理解しようとする姿勢が大切である。前期の初めの「電気」の勉強では、計算をなるべく使わず、電気・磁気現象に慣れ、その現象の仕組みを理解する。その後の「力学」では、様々な運動について式を使って計算できるようにする。特に、運動方程式を使って等加速度運動の計算ができるようにすること、さらにエネルギー保存の法則についても学ぶ。

[授業の内容]

前後期共に第1週～第15週までの内容はすべて、学習・教育目標(B)〈基礎〉に相当する。

前期

- 第1週 物理学に関する一般的な解説
- 第2週 電気の正体, 静電気
- 第3週 電流と電気抵抗
- 第4週 抵抗の接続
- 第5週 磁界, 電流がつくる磁界, モーターのしくみ
- 第6週 発電機の原理
- 第7週 交流と電波
- 第8週 前期中間試験
- 第9週 日常に起こる物体の運動, 速さ, 速度
- 第10週 相対速度, 等速直線運動
- 第11週 正の加速度をもつ等加速度直線運動
- 第12週 負の加速度をもつ等加速度直線運動
- 第13週 落体の運動
- 第14週 ベクトルの和と差
- 第15週 フックの法則, 力の合成と分解

後期

- 第1週 力のつりあいと作用・反作用
- 第2週 慣性の法則・運動の法則
- 第3週 重力と質量, 運動の三法則, 単位と次元
- 第4週 摩擦力がはたらく場合
- 第5週 押し合う力・糸の引く力がはたらく場合
- 第6週 空気抵抗や浮力がはたらく場合
- 第7週 力のモーメント
- 第8週 後期中間試験
- 第9週 平行な2力の合成, 物体の重心
- 第10週 物体のつり合いの条件
- 第11週 仕事
- 第12週 運動エネルギー
- 第13週 位置エネルギー
- 第14週 力学的エネルギー保存の法則
- 第15週 力学的エネルギーが保存されない場合

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
物理（つづき）	平成18年度	仲本 朝基	1	通年	2	必

<p>〔この授業で習得する「知識・能力」〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 乗除に関する有効数字を正しく使いこなせる。 電気量の概念を理解できる。 オームの法則を理解でき、計算に利用することができる。 抵抗の接続公式を利用して合成抵抗を求めることができる。 磁界の概念およびモーターの仕組みを理解できる。 電磁誘導を理解でき、誘導起電力の発生する向きを求めることができる。 速さと速度の違いを理解できる。 相対速度を理解でき、等速直線運動に関連する諸物理量を求めることができる。 等加速度直線運動に関連する諸物理量を求めることができる。 自由落下および鉛直投射に関連する諸物理量を求めることができる。 ベクトルの加減計算ができる。 フックの法則を理解でき、計算に利用することができる。 力の合成と分解ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 力のつり合いと作用・反作用の違いを理解できる。 ニュートンの運動の三法則を理解できる。 重さと質量の違いを理解できる。 以下の状況において、運動方程式を正しく記述できる。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 摩擦力がはたらく場合 (2) 押し合う力・糸の引く力がはたらく場合 (3) 空気抵抗や浮力がはたらく場合 力のモーメントの概念を理解でき、求めることができる。 物体の重心を求めることができる。 剛体のつり合いの条件から、関連する諸物理量を求めることができる。 仕事および仕事率を求めることができる。 エネルギーの原理を理解できる。 位置エネルギーを理解でき、求めることができる。 力学的エネルギー保存の法則を理解でき、それを利用して関連する諸物理量を求めることができる。
<p>〔注意事項〕 “勉強の仕方”</p> <p>基本的に、教科書にしたがって授業は行われる。授業が終わったら、自宅で、教科書の内容を復習する。問題集の習った範囲の例題、問題等を解いて理解を確実にするとよい。余裕があったら、ステップ3の問題にも挑戦してみる。</p> <p>物理は、自分で考え理解することが大切である。すぐ答えを見ないで、自分の力で考え解いてみる力を養うように努力する。</p>	
<p>〔あらかじめ要求される基礎知識の範囲〕 中学までの数学の知識は必要。理科の知識があればなお良い。</p>	
<p>〔レポート等〕 その日に学習した内容に関連するプリント問題を毎回宿題とする。</p> <p>夏休み期間中を対象とした宿題もレポートとして提出を求める。</p>	
<p>教科書：「物理」 兵頭申一他編（啓林館）</p> <p>問題集：「センサー物理 +」 高校物理研究会、啓林館編集部編（啓林館）</p>	
<p>〔学業成績の評価方法および評価基準〕</p> <p>前期中間・前期末・後期中間・学年末の4回の試験またはそれに代わる再試験（本試験で60点に達しなかったものが受験して本試験以上の点数を取れば上限を60点として評価を置き換える。ただし各試験につき1回限りで、学年末は行わない）の結果に、夏休みの宿題（30点満点）の評価および毎回の宿題（1回につき1点）の評価を合計して、それを4で割ったものを最終的な評価とする。</p> <p>〔単位修得要件〕 学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
化 学	平成18年度	山崎 賢二	1	通年	2	必

[授業の目標]

本科目の学習を通し、化学に関する基本的な事項、及び物質の性質とその理論的な扱いを理解し、化学的なものの見方や考え方を身に付ける。またこれらを身に付けることで、高学年における実践的技術者教育の基礎をつくる。

[授業の内容]

前期

授業の概要説明

第1週 シラバスを用いて授業の概要、進め方を説明する。

化学とその役割 学習・教育目標(A) < 視野 >

< 技術者倫理 >

以下すべての内容は、学習・教育目標(B) < 基礎 > に対応する。

物質の構成

第2週 混合物、純物質、単体、化合物、元素

第3週 物質をつくる粒子、物質の状態

第4週 原子の構造、原子の電子配置、原子の結びつき

第5週 原子の電子配置、原子の結びつき

第6週 元素の性質と周期表

第7週 原子量、分子量、式量

第8週 前期中間試験

第9週 物質量

第10週 物質量

第11週 化学変化とその量的関係

第12週 化学変化とその量的関係

物質の変化

第13週 化学反応と熱

第14週 熱化学方程式

第15週 ヘスの法則

後期

すべての内容は、学習・教育目標(B) < 基礎 > に対応する。

第1週 酸と塩基

第2週 水の電離とpH

第3週 中和反応

第4週 中和反応

第5週 酸化と還元

第6週 酸化剤と還元剤

第7週 金属の酸化還元反応

第8週 後期中間試験

第9週 電池と電気分解

第10週 電池と電気分解

無機物質

第11週 周期表と元素の性質、水素と希ガス

第12週 ハロゲン、酸素、硫黄

第13週 窒素、リン、炭素、ケイ素

第14週 アルカリ金属、2族元素

第15週 アルミニウム、亜鉛、遷移元素

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
化学(つづき)	平成18年度	山崎 賢二	1	通年	2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>化学とその役割 学習・教育目標(A) <視野> <技術者倫理>、J A B E E 基準 1(1)(a)(b) に対応する。</p> <p>1. 化学の発展、20世紀の化学がもたらした代表的な功績と問題点を把握している。</p> <p>2. 21世紀の代表的な化学の役割を理解している。</p> <p>以下すべての内容は、学習・教育目標(B) <基礎>、J A B E E 基準 1(1)(c)に対応する。</p> <p>物質の構成</p> <p>3. 混合物、純物質、単体、化合物の分類について理解できる。</p> <p>4. 原子の構造や、原子の電子配置について理解できる。</p> <p>5. 元素の性質と周期表との関係について理解できる。</p> <p>6. 分子量、式量を計算できる。</p> <p>7. 物質量(モル)の概念について理解できる。</p> <p>8. 化学変化に伴う量的関係について、物質量を用いて計算できる。</p>	<p>物質の変化</p> <p>9. 熱化学方程式、ヘスの法則について理解でき、基本的な各種反応における反応熱を計算できる。</p> <p>10. 酸と塩基の性質、電離度について理解できる。</p> <p>11. 水素イオン濃度、水素イオン指数について理解できる。</p> <p>12. 中和反応、中和滴定曲線について理解できる。</p> <p>13. 酸化還元反応とその反応における電子の授受について理解できる。</p> <p>14. 電池の仕組み、電気分解反応について理解できる。</p> <p>無機物質</p> <p>15. 代表的な非金属元素とその化合物の性質について理解できる。</p> <p>16. 代表的な金属元素とその化合物の性質について理解できる。</p>
<p>[注意事項]</p> <p>授業中に演習問題を解くので電卓は必要である。また試験時においても電卓の持ち込みは可である。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>中学校での数学、理科、及び本校における数学に関する基礎知識。</p>	
<p>[レポート等]</p> <p>一つの章を学習する度に章別確認試験を行う。</p> <p>日常の自己学習状況をPRする手段の一つとして、「化学の基本マスター」の提出を勧める。</p>	
<p>教科書：「高等学校 化学」 坪村宏・斎藤烈・山本隆一編(新興出版社啓林館)</p> <p>参考書：「化学の基本マスター」 高校化学研究会編(新興出版社啓林館)、「図解総合化学」 斎藤烈監修(新興出版社啓林館)</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>この授業で習得する「知識・能力」について、章別確認試験(習得する「知識・能力」について、その理解度を確認するための試験)を行い、60点以上を合格とする。章別確認試験不合格者に対しては、レポートの提出と再試験を科す。すべての章別確認試験が合格しておれば持ち点を60点とし、前期中間・前期末・後期中間・学年末の4回の試験の平均点が60点を超えた場合はその点数を加点して評価する。その他平常の学習態度等(積極的な授業への取り組み、「化学の基本マスター」の学習状況等)に特段のものがあればそれを考慮して評価を行う。</p> <p>[単位修得要件] 学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
英語 A	平成18年度	中井 洋生	1	通年	4	必

[授業の目標]

英語の構造、修飾の方法、時制等の文法知識を体系的に学ぶことにより、今後の言語習得に必要な基本的能力を養成するとともに、積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

[授業の内容]

下記授業内容はすべて学科・学習教育目標（A）および（C）の項目に相当する。

前期

- 第1週 授業の概要 語（品詞）・動詞の活用
- 第2週 文の種類
- 第3週 基本時制と進行形
- 第4週 完了形 現在完了
- 第5週 完了形 過去完了
- 第6週 助動詞 can could may might の用法
- 第7週 助動詞 must have to will would の用法
- 第8週 前期中間試験
- 第9週 助動詞 shall should その他の助動詞の用法
- 第10週 文型 自動詞と他動詞 5文型
- 第11週 受動態 能動態と受動態 文型と受動態
- 第12週 受動態 注意すべき受動態
- 第13週 動名詞
- 第14週 不定詞 不定詞基本用法
- 第15週 不定詞 S+V+O+to~/ 原型不定詞

後期

- 第1週 不定詞 不定詞を使った重要表現
- 第2週 不定詞 疑問詞+不定詞、独立不定詞
- 第3週 分詞 名詞を修飾、補語になる用法
- 第4週 分詞 分詞構文
- 第5週 関係詞 関係代名詞
- 第6週 関係詞 関係代名詞と前置詞
- 第7週 関係詞 関係副詞
- 第8週 後期中間試験
- 第9週 関係詞 関係詞の継続用法
- 第10週 比較 原級、比較級、最上級
- 第11週 比較 慣用表現
- 第12週 仮定法 仮定法過去 仮定法過去完了
- 第13週 仮定法 注意すべき仮定法
- 第14週 接続詞
- 第15週 特殊構文、話法

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
英語 A (つづき)	平成18年度	中井 洋生	1	通年	4	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平叙文、疑問文、命令文、感嘆文といった様々な英文の種類を理解することができる。 2. 現在形、過去形、未来形、進行形といった時制を理解することができる。 3. 完了、結果、経験、継続といった完了形の用法を理解することができる。 4. can, may, must, will, shall といった助動詞の用法を理解することができる。 5. 5文型を理解することができる。 6. 受動態の用法を理解することができる。 7. 動名詞の用法を理解することができる。 8. 不定詞の名詞用法、形容詞用法、副詞用法、その他用法を理解することができる。 9. 現在分詞、過去分詞の用法を理解することができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 10. 関係代名詞、関係副詞、複合関係詞の用法を理解することができる。 11. 原級、比較級、最上級の用法が理解することができる。 12. 仮定法現在、仮定法過去、仮定法過去完了の用法を理解することができる。 13. 等位接続詞、従位接続詞の用法を理解することができる。 14. 直接話法、間接話法といった話法の用法を理解することができる。 15. 倒置構文、強調構文、省略構文、共通構文といった特殊構文を理解することができる。 16. 「授業内容」に示した文法事項を理解し、それらを利用して書かれた英語の内容や、聞いた英語の内容を理解することができる。 17. 「授業内容」に示した文法事項を理解し、それらを正しく運用して自分の考えを伝えることができる。 18. 中学・高校の基本英単語約1,500語の意味が理解することができる。
<p>[注意事項] 電子辞書を必ず授業に持参すること。予習復習を行い、積極的に授業に参加すること。 授業時に英単語テストを行う。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 中学校で学習した英単語、英文法の知識</p>	
<p>[レポート等] 進度に応じて適宜演習課題を与える。</p>	
<p>教科書 : Broad English Grammar 27 Lessons (啓林館)、 Broad English Grammar 27 Lessons Workbook (啓林館) 理工系学生のための必修英単語 3 3 0 0 (成美堂) 参考書 : Broad 総合英語 (啓林館)</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>中間試験、定期試験の結果を7割、授業中に行う小テスト及び提出課題の結果を3割としてその合計で評価する。ただし、前期中間、前期末、後期中間のそれぞれの試験について60点に達していない者には再試験を課し、再試験の成績が該当する試験の成績を上回った場合には、60点を上限としてそれぞれの試験の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学年所定の英単語テストに全て合格したうえで、学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
英語 B	平成 18 年度	出口 芳孝	1	通年	2	必

[授業の目標]

中学校で学習した知識・技能を活用して、幅広い話題について英語で読んだり、聞いたりする能力を養うとともに、異文化に対する理解を深め、コミュニケーションの手段として積極的に外国語を活用しようとする態度を育てる。

[授業の内容]

すべての内容は、学習・教育目標(A) <視野> <意欲> 及び(C) の<英語>に対応する。

前期

- 第 1 週 Introduction
- 第 2 週 Pictures from Space (1)
- 第 3 週 Pictures from Space (2)
- 第 4 週 Love for People (1)
- 第 5 週 Love for People (2)
- 第 6 週 Love for People (3)
- 第 7 週 第 2 週～第 6 週のまとめと復習
- 第 8 週 中間試験
- 第 9 週 Fingers, Chopsticks, or Forks (1)
- 第 10 週 Fingers, Chopsticks, or Forks (2)
- 第 11 週 Fingers, Chopsticks, or Forks (3)
- 第 12 週 A Message from Mariah Carey (1)
- 第 13 週 A Message from Mariah Carey (2)
- 第 14 週 A Message from Mariah Carey (3)
- 第 15 週 第 9 週～第 14 週のまとめと復習

後期

- 第 1 週 Frogs Are Disappearing (1)
- 第 2 週 Frogs Are Disappearing (2)
- 第 3 週 Frogs Are Disappearing (3)
- 第 4 週 Queen of Subtitle Translation (1)
- 第 5 週 Queen of Subtitle Translation (2)
- 第 6 週 Queen of Subtitle Translation (3)
- 第 7 週 第 1 週～第 6 週のまとめと復習
- 第 8 週 中間試験
- 第 9 週 African Eve: Mother of Human Beings (1)
- 第 10 週 African Eve: Mother of Human Beings (2)
- 第 11 週 African Eve: Mother of Human Beings (3)
- 第 12 週 Everybody Is Different (1)
- 第 13 週 Everybody Is Different (2)
- 第 14 週 Everybody Is Different (3)
- 第 15 週 第 9 週～第 14 週のまとめと復習

[この授業で習得する「知識・能力」]

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. 「授業内容」に示した教科書の英文の内容が理解できる。 2. 英文の内容に関して簡単な質疑応答が英語でできる。 3. 既習の英語表現を理解し、基本的なものを運用できる。 | <ul style="list-style-type: none"> 4. 既習の英文を、内容が伝わる程度に朗読できる。 5. 教科書と同程度の未修の英文の内容が理解できる。 6. 目標達成のため自主的・継続的に学習できる。 |
|--|---|

[注意事項] ノートはA4ルーズリーフまたはレポート用紙を用いること。音読を含めた予習が授業参加の前提である。

授業には必ず英和辞典(電子辞書でも可)を用意すること。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]

中学校3年間で学習した英単語、熟語、英文法の知識。

[レポート等] 授業に関連した課題、レポートを課す。

教科書: Vivid English Course (予習ノート・Work Book 含む) (第一学習社)、

参考書: チャート式 LEARNERS 高校英語(数研出版)

[学業成績の評価方法および評価基準]

中間試験(2回)、定期試験(2回)の成績を7割、授業時の成績(予習確認、小テストを含む)および課題を3割として100点法で評価する。ただし、学年末試験を除く3回の試験について60点未満のものには、それを補うための再試験、課題を課すことがある。その場合には60点を上限として再評価する。

[単位修得要件]

学業成績で60点以上を取得すること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
保健体育(保健)	平成18年度	船越 一彦	1	通年	4(1)	必

〔授業の目標〕

「保健」の授業では、現代社会の健康、生涯を通じる健康、集団の生活における健康についての理解を深め、健康の保持増進を図り、集団の健康を高めることに寄与する能力と態度を養う。

〔授業の内容〕

第1週～第15週までの内容はすべて、学習・教育目標(A)〈意欲〉に相当する。

前期

- 第1週 授業内容説明
- 第2週 スポーツテスト
- 第3週 スポーツテスト
- 第4週 食事と健康(糖質)
- 第5週 食事と健康(脂質)
- 第6週 食事と健康(蛋白質)
- 第7週 食事と健康(ビタミン・ミネラル)
- 第8週 運動と健康
- 第9週 喫煙と健康
- 第10週 飲酒と健康
- 第11週 薬物乱用
- 第12週 医薬品と健康
- 第13週 生涯を通じる健康と家庭生活
- 第14週 100分水泳
- 第15週 100分水泳のテスト

後期

- 第1週 出産に関するビデオ鑑賞
- 第2週 思春期と性
- 第3週 性機能とその成熟
- 第4週 受精・妊娠
- 第5週 出産の生理
- 第6週 結婚と家族計画
- 第7週 性感染症(梅毒)
- 第8週 性感染症(淋病・クラミジア・ヘルペス・原虫)
- 第9週 エイズ
- 第10週 救急法の基礎知識
- 第11週 気道の確保と人工呼吸
- 第12週 心肺蘇生法
- 第13週 出血の処置
- 第14週 急病人の応急手当
- 第15週 運動中に起こりやすいけがの処置

〔この授業で習得する「知識・能力」〕

授業内容と自分の日常生活を照らし合わせて、健康について考える習慣を身につけられるようにする。

〔注意事項〕

1. 100分の中で保健と実技を行うので、保健に費やす時間は1回あたり40分程度です。但し、ビデオ教材を使うときなどは、100分間保健を行う場合があります。
2. 実技の進行状態によって内容と時間配分が変わります。

〔あらかじめ要求される基礎知識の範囲〕

中学校で学んだ保健の内容及び一般常識。

〔レポート等〕特になし

教科書：「学生のための健康科学」

参考書：「図説 新高等保健」

〔学業成績の評価方法および評価基準〕

保健理論25%及び体育実技25%で全体の50%、武道50%を合わせて総合的に評価します。その中には平常の学習に取り組む姿勢・意欲等も評価の対象として含まれます。

〔単位修得要件〕

学業成績で60点以上を取得すること

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
保健体育（実技）	平成18年度	舩越 一彦	1	通年	4（1）	必

〔授業の目標〕 「体育実技」は、成長期であるこの時期に運動を通して基礎体力を高め、心身の調和的発達を促すとともに、生涯を通じて運動を楽しみ、健康な生活を営む態度を育てる

〔授業の内容〕
<p>第1週～第15週までの内容はすべて、学習・教育目標(A)＜意欲＞に相当する。</p> <p>前期</p> <p>第1週 授業内容説明 第2週 スポーツテスト 第3週 スポーツテスト 第4週 スポーツテスト 第5週 走高跳（着地練習） 第6週 走高跳（助走練習） 第7週 走高跳（跳躍練習） 第8週 水泳（基礎練習） 第9週 水泳（クロール） 第10週 水泳（平泳ぎ） 第11週 水泳 総合練習 第12週 実技試験 第13週 実技試験 第14週 体育祭の種目練習 第15週 体育祭の種目練習</p>
<p>後期</p> <p>第1週 体育祭の種目練習 第2週 走高跳（跳躍練習） 第3週 走高跳計測及びサッカー 第4週 走高跳計測及びサッカー 第5週 走高跳計測及びサッカー 第6週 走高跳計測及びサッカー 第7週 卓球 第8週 卓球 第9週 長距離走及び卓球 第10週 長距離走及び卓球 第11週 長距離走及び卓球 第12週 3000m計測 第13週 各種球技 第14週 各種球技 第15週 各種球技</p>

〔この授業で習得する「知識・能力」〕

1. 進んで運動に参加する意識を持つこと
2. 水泳においては25m完泳出来るように努力する
3. 長距離走においては最後まで走りきれるように努力する
4. お互いの健康と安全について注意し、協力して練習することによってそれぞれの目標や課題を達成できるように努力する

〔注意事項〕

1. 実技の説明をよく聞き、また準備体操をしっかりと行うことにより、不注意による事故やけがを未然に防ぐようにする。
2. ジャージ、運動靴、体育館シューズ、水着など指定された物を着用すること。
3. けがや、体調がすぐれないときにやむなく見学する場合も自分が手伝えること（タイムの計測、準備、後かたづけ等）を見つけて積極的に授業に参加する。（原則として見学者も着替える）
4. 天候によって内容と時間配分が変わります。（雨天時はバスケットボールなど球技を行います）
5. 1コマの中で保健と実技を行うので、実技に費やす時間は1回あたり45分程度です。但し、水泳等は保健なしで実技を行う場合があります。

〔あらかじめ要求される基礎知識の範囲〕 各スポーツの基礎知識があれば良い。

〔レポート等〕 骨折や入院等で長期間欠席や見学をした場合のみレポートを提出する。

教科書：なし
参考書：SPORTS GUIDANCE（一橋出版）

〔学業成績の評価方法および評価基準〕 保健理論25%及び体育実技25%で全体の50%、武道50%を合わせて総合的に評価します。その中には平常の実技に取り組む姿勢・意欲等も含まれます。

〔単位修得要件〕 水泳のタイム計測、走高跳などの実技試験をもとに、平常の授業態度等を考慮して学業成績で60点以上を取得すること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
保健体育（剣道）	平成18年度	細野 信幸	1	通年	4（2）	必

[授業の目標]

「剣道」は古来より「礼に始まり、礼に終わる」と言われるように常に礼を尊び厳格な礼儀作法で行われてきたことから、現代、礼儀を重んじる態度を育成するのに特に効果的である。剣道を通じて武道の精神を理解し、楽しく取り組める剣道の指導に心がけたい。

[授業の内容]

初歩的段階における剣道の特性とそれに基づく練習法に関する知識については、次のような事項を取り扱って、剣道の技能を高めることに役立たせる。

第1週～第15週までの内容はすべて、学習・教育目標(A)＜意欲＞に相当する。

前期

- 第1週 剣道の意義と特性
- 第2週 授業（剣道）目標（ねらい）
- 第3週 授業内容と方法
- 第4週 剣道用具とその取り扱い方法及び作法
- 第5週 竹刀について
- 第6週 服装について（剣道衣・袴）
- 第7週 防具の着け方（垂・胴・面・小手）
- 第8週 礼の仕方（坐礼・立礼）
- 第9週 竹刀の下げ方と中段の構え方
- 第10週 修練及び試合における始めと終わりの作法
- 第11週 構えについて（姿勢・竹刀の保持）
- 第12週 構えの解説（五行の構えについて）
- 第13週 体さばきについて（身体移動）
- 第14週 体さばきの実際（足運びの練習）
- 第15週 打撃の基礎修練法（素振り）

後期

- 第1週 稽古方法とその心得（健康と安全）
- 第2週 基本打突の実際（基本打突について）
- 第3週 各部位の打突について（打ち方・受け方）
- 第4週 気・剣・体一致の打突について
- 第5週 有効打突を判断する要素
- 第6週 間合について（種類）
- 第7週 間の取り方
- 第8週 技について
- 第9週 仕掛け技・応じ技・鍔迫り合い・体当たり
- 第10週 稽古の種類とねらい
- 第11週 稽古の心得
- 第12週 試合に臨む心得
- 第13週 校内武道大会
- 第14週 試合規則並びに審判規則の理解
- 第15週 一年間の反省と今後の課題

（次ページにつづく）

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
保健体育（剣道）つづき	平成18年度	細野 信幸	1	通年	4（2）	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 剣道の意義と特性を理解し、積極的に声を出し授業に取り込むことができる。 2. 授業の内容と方法を理解し、行動することができる。 3. 剣道用具（防具）の着装に対する理解と、正しく取り扱うことができる。 4. 竹刀の名称の理解と、正しく組み立てることができる。 5. 礼に対する理解と、正しく行動ができる。 6. 構えに対する理解と、実際に正しく構えることができる。 7. 体さばきの理解と、正しく行動ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 8. 稽古方法に対する理解と行動ができる。 9. 基本的な打ち方の心得と説明ができる。 10. 気・剣・体一致の理解と打突ができる。 11. 間合いについての理解と行動ができる。 12. 技に対する実際と、内容を理解している。 13. 稽古に対する心構えと試合に対する心得を身につける。 14. 試合及び審判規則の理解ができる。 15. 校内武道大会で日頃修練した技を發揮し悔いのない試合ができる。
<p>[注意事項] 「剣道」は竹刀を使用して打突し合う競技であるため力まかせな行為に陥りやすいから楽しんで行うためには相手の人格を尊重する態度が他のスポーツに比べ一層重要な条件となる。竹刀で打突するため、注意していても軽い打撲はつきものであるが、竹刀の破損による事故は競技者にとって致命傷になりかねない。したがって、授業中何度も竹刀のチェックをし、安全管理に心がけるようにすること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 入学後ごく簡単な基礎的知識を習得する段階から入るので、がんばる気持ちさえあれば問題はない。</p>	
<p>[レポート等] 特に提出を求めることはないが、初めて経験する授業と思われるので出来ればその日に学んだことをノート等に記録しておくと思われ。</p>	
<p>教科書： 必要に応じて資料（プリント）を配布する。 参考書： 特になし。</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>武道の成績は体育実技・保健と合わせ、この授業で習得する知識・能力の達成度をもとに学習への取り組み姿勢も考慮し総合的に評価して保健体育の成績とする。内訳は武道（剣道）5割、体育実技・保健5割を原則とする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>実技科目なので技術の修得が第一条件ですが、学習への取り組み姿勢も含め総合的に評価し、60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
保健体育(柔道)	平成18年度	前川 忠秀	1	通年	4(2)	必

[授業の目標]

「柔道」の基本動作の反復練習により、自己の能力にあった得意技を体得させ、相手の動きや技に応じた攻防を工夫し、お互いに協力、教えあいなどにより自主的・意欲的に練習が出来るようにする。また、練習を通じてお互いに相手を尊重し、礼儀正しい態度を養う。

[授業の内容]

技の理論や方法をよく理解させ、簡単な方法から高度な方法へと、合理的にくり返して練習し技を体得させる。

第1週～第15週までの内容はすべて、学習・教育目標(A)＜意欲＞に相当する。

前期

第1週 柔道の知識(歴史、意義と練習の目的、練習の目的、
授業の内容)

第2週 柔道衣の取り扱い方(着方、たたみ方)礼法

第3週 後受身(単独、2人一組による)

第4週 横受身(単独、2人一組による)

第5週 前受身、前回り受身

第6週 姿勢(自然体、自護体)組み方、歩き方

第7週 崩し、力の用法、作りと掛け、体さばき

第8週 投げ技について(禁止事項、練習の仕方)

第9週 膝車(掛け、横受身、相対動作による受身と掛け)

第10週 大腰(掛け、横受身、相対動作による受身と掛け)

第11週 相対動作による受身、掛け(確認)

第12週 固め技の基本(特色、練習の仕方、禁止事項)

第13週 本袈裟固(基本と応じ方)

第14週 崩袈裟固(基本 5種類 と応じ方)

第15週 崩袈裟固(基本 5種類 と応じ方)

後期

第1週 横四方固(基本と応じ方)

第2週 崩上四方固(基本と応じ方)

第3週 固め技の攻め方について(四つんばいの体勢 頭部から
攻める。横向きの体勢 体側、背面から攻める)

第4週 固技の乱取、研究打込

第5週 上四方固(基本と応じ方)

第6週 肩固(基本と応じ方)本袈裟固 肩固

第7週 得意技の反復打込、乱取

第8週 得意技の連絡変化(得意技 他の技)

第9週 得意技の打込、乱取、研究

第10週 審判規程の説明、試合における礼法、試合練習

第11週 得意技の打込、乱取、試合練習、研究

第12週 得意技の打込、乱取、試合練習、研究

第13週 校内武道大会

第14週 固め技の連絡変化

第15週 授業の総括

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
保健体育(柔道)つづき	平成18年度	前川 忠秀	1	通年	4(2)	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. 柔道の知識を理解し、積極的に授業に取り込むことができる。</p> <p>2. 授業の内容と方法を理解し、行動することができる。</p> <p>3. 柔道衣の取り扱いの理解と、正しく着装ができる。</p> <p>4. 受け身の名称の理解と大切さ、そして正しく行動ができる。</p> <p>5. 基本的な姿勢(組み方、歩き方)に対する理解と行動ができる。</p> <p>6. 投げ技に対する(禁止事項、練習の仕方)理解と、心構えができる。</p>		<p>7. 練習方法に対する理解と行動ができる。</p> <p>8. 基本的な固め技の心得と説明ができる。</p> <p>9. 固め技の理解と行動ができる。</p> <p>10. 固め技の連絡と変化を理解している。</p> <p>11. 練習に対する心構えと試合に対する心得を身につける。</p> <p>12. 試合に臨む心得・及び審判規則の理解ができる。</p> <p>13. 校内武道大会で日頃修練した技を發揮し悔いのない試合ができる。</p>
<p>[注意事項] 柔道衣の安全や清潔を確かめ、禁止技を用いないなど、健康や安全に配慮して練習を行うこと。</p>		
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 柔道の基礎的知識から指導するので特に必要なし。</p>		
<p>[レポート等] 特に提出を求めることはない。</p>		
<p>教科書：必要に応じて資料(プリント)を配布する。</p> <p>参考書：特になし</p>		
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>武道の成績は体育実技・保健と合わせ、この授業で修得する「知識・能力」をもとに学習への取り組む姿勢も考慮し総合的に評価して保健体育の成績とする。内訳は武道(柔道)5割、体育実技・保健5割を原則とする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>実技科目なので技術の修得が第一条件ですが、学習への取り組む姿勢も含め総合的に評価し、60点以上を取得すること。</p>		

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
地 理	平成18年度	市川 千昭	1	通年	2	選

[授業の目標]

地域間の相互関係や自然と人間との関係に対する考え方の基礎を提供することにより、民族、経済格差、環境問題などの、現代世界の諸問題に対する関心を高める。

[授業の内容]

すべての内容は、学習・教育目標(A) <視野> に対応する。

前期

- 第 1 週 球面上の世界と地域構成 (1)
私たちの星・地表面の捕らえ方
- 第 2 週 球面上の世界と地域構成 (2)
球面と平面の世界
- 第 3 週 球面上の世界と地域構成 (3)
時差と生活
- 第 4 週 球面上の世界と地域構成 (4)
国家と地域区分
- 第 5 週 結びつく現代世界 (1)
世界を結ぶ交通
- 第 6 週 結びつく現代世界 (2)
世界を一つに結ぶ通信
- 第 7 週 結びつく現代世界 (3)
国際化する人々の移動
- 第 8 週 前期中間試験
- 第 9 週 人間生活をとり巻く環境 (1)
人々の生活と地形
- 第 10 週 人間生活をとり巻く環境 (2)
人々の生活と地形
- 第 11 週 人間生活をとり巻く環境 (3)
人々の生活と地形
- 第 12 週 人間生活をとり巻く環境 (4)
人々の生活と地形
- 第 13 週 人間生活をとり巻く環境 (5)
人々の生活と気候
- 第 14 週 人間生活をとり巻く環境 (6)
人々の生活と気候
- 第 15 週 人間生活をとり巻く環境 (7)
人々の生活と気候・社会環境

後期

- 第 1 週 世界の諸地域の生活と文化
中国の生活・文化
- 第 2 週 世界の諸地域の生活と文化
東南アジアの生活・文化
- 第 3 週 世界の諸地域の生活と文化
インドの生活・文化
- 第 4 週 世界の諸地域の生活と文化
ヨ - ロッパの生活・文化
- 第 5 週 世界の諸地域の生活と文化
アメリカ合衆国の生活・文化
- 第 6 週 世界の諸地域の生活と文化
オ - ストラリアの生活・文化
- 第 7 週 地域的課題と私たち (1)
世界の人口問題
- 第 8 週 後期中間試験
- 第 9 週 地域的課題と私たち (2)
世界の人口問題
- 第 10 週 地域的課題と私たち
世界の食料問題
- 第 11 週 地域的課題と私たち
世界の都市・居住問題
- 第 12 週 地域的課題と私たち
世界の資源・エネルギー - 問題
- 第 13 週 地域的課題と私たち (1)
世界の環境問題
- 第 14 週 地域的課題と私たち (2)
世界の環境問題
- 第 15 週 近隣諸国が取り組む課題と日本の役割

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
地 理 (つづき)	平成18年度	市川 千昭	1	通年	2	選

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1部 1章 球面上の世界と地域構成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球の大きさについての知識と理解。 2. 地図に関する基本的知識と理解。 3. 地形図、小縮尺の地図についての理解。 4. 地形図が読むことができる。 5. 時差について理解できる。 <p>1部 2章 結びつく現代世界</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界の交通・通信についての理解。 2. 世界の人口および移動についての理解。 3. 世界の貿易についての理解。 <p>2部 1章 人間生活をとり巻く環境</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大地形はどのようにして形成されたか、また、プレ-テクトニクスとの関連が理解できる。 2. 世界の平野・平原の成因・分類の説明ができる。 3. 世界・日本の小地形・微地形について代表的な例が理解できる。 4. 気温・風・降水についての理解。 5. 気候区の特徴・地域の理解。 	<p>2部 2章 世界の諸地域の生活と文化</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中国の自然・社会環境・生活・文化的特色の理解。 2. インドの自然・社会環境・生活・文化的特色の理解。 3. ヨ-ロッパの国々を知っている。 4. ヨ-ロッパの自然環境・産業についての知識。 5. EUの成立・発展についての理解。 6. アメリカ合衆国の自然環境・産業についての理解。 7. オ-ストラリアの自然環境・産業についての理解。 <p>3部 1章 地球的課題と私たち</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界の人口・人口問題について説明できる。 2. 世界の食料生産についての理解。 3. 世界の都市問題についての理解。 4. 世界のエネルギー・資源・鉄鉱資源についての理解。 5. 世界の環境問題についての理解。 6. 国際化のなかで異文化を理解・尊重する態度。
<p>[注意事項]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書・地図帳を用いて授業を進めるので、話をよく聞いて事象と事象の結びつきを理解することに努めることが肝要である。 2. 板書を多くするので必ずノ-トを取る。 3. 国名、県名、都市名など地誌の知識に乏しいと理解が困難になる。授業には必ず地図帳を持参すると同時に普段の生活の中でも社会の動きに関心を持つこと。 	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>小・中学校で学んだ地理的分野の知識</p>	
<p>[レポート等] 全員対象の課題 成績不振者課題</p>	
<p>教科書：「新地理A」（帝国書院）、「新詳高等地図」（帝国書院）</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>定期試験の結果とレポートの内容により評価する。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
美術	平成18年度	浅井 清貴	1	通年	2	選

[授業の目標]

芸術とは、毎日の暮らしの中で運命に流されている自分を止め、自らに問いかけ、生まれ、老い、死んでいくかけがえない人生を慈しみ、明日のエネルギーを汲み出し、自己を変革する行為である。美術はそのために必要な想像力と感性を養い、発想を豊かにし「いかに美しく生きるとは何か」を考え形にする。

[授業の内容] すべての内容は、学習・教育目標 (A) の<視野

>に対応する。

前期	後期
1 美術史	6 風景画
第 1 週 芸術とは何か	第 1 週 自然に学ぶ(校内写生)
第 2 週 人類は何故描くのか	第 2 週 "
第 3 週 画家の誕生と天才たちの饗宴	第 3 週 "
第 4 週 モダンアートと印象派	7 コンテンポラリーアート
2 ハイブリットアート	第 4 週 現代美術(抽象画)
第 5 週 今、なぜ福祉芸術か	第 5 週 "
第 6 週 "	8 環境芸術
3 人物画	第 6 週 リサイクルアート
第 7 週 自己の内面を描く(未来の自画像)	第 7 週 "
第 8 週 "	第 8 週 "
第 9 週 "	9 仮面舞踏会
4 構想画	第 9 週 舞台美術(面を作り面で舞う)
第 10 週 構想画(イメージ遊び)	第 10 週 "
第 11 週 "	第 11 週 "
第 12 週 "	10 メディアアート
5 ランドスケープ	第 12 週 舞踏パフォーマンス
第 13 週 生活環境とデザイン	第 13 週 "
第 14 週 "	第 14 週 21 世紀の夢
第 15 週 "	第 15 週 "

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
美術（つづき）	平成18年度	浅井 清貴	1	通年	2	選

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>美術史 絵画 彫刻は何のために作られたかを、時代別変遷とともに説明できる</p> <p>風景画 自然をよく観察し、自然を師として学ぶ態度を身につける。</p> <p>人物画 自己を見つめ描くことにより、自己の内面や情熱・愛・苦悩を浮き彫りにして描くようにする。</p> <p>コンテンポラリーアート 平和の尊さ豊かさの希求から生きることの本当の本質的な意味を考え、自分の作品のコンセプトを説明する。</p>	<p>環境芸術 地球環境に配慮し、地球環境と一体化したデザインを描く。</p> <p>メディアアート 新しい表現媒体を取り入れた作品の制作</p> <p>ハイブリットアート 真の豊かさとは何かに目を向け、先端芸術を夢として描く</p> <p>福祉芸術 障害者芸術の魅力と可能性を説明できる</p>
<p>[注意事項] 芸術とは、< 毎日の暮らしの中で運命に流されている自分を止め、自らに問いかけることによって、生まれて、老いて、死にゆかけがえのない人生を慈しみ、明日へのエネルギーをくみ出し、自己を変革する行為である > ということをも命題に、各々の課題と真剣に取り組む態度が必要である授業がすべて。教室での話しに集中し、よく分からない所は、授業中、放課後いつでも質問に来る。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 特になし。</p>	
<p>[レポート等] 長期休暇中の課題としてテーマを決めた絵画，ポスター等の制作を課す。</p>	
<p>教科書： 「美・創造へ2」 絹谷幸二・他著（日文），「美術1」 河北倫明・他著（光村図書） 参考書： 「西洋美術史」 高階秀爾著（美術出版社），「芸術と美学」 R・シュタイナー著（平河出版社）</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準] 通年2回（学期末のみ）の試験結果，ならびに7－8点の制作品（パフォーマンス含む）による採点と授業への取り組み姿勢，宿題提出物を総合的に評価する。（全員優が目標）</p> <p>[単位修得要件] 前期末・後期末の2回の定期試験および制作作品、宿題提出等により、60点以上修得すること</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
音楽	平成 18 年度	阿部 浩子	1	通年	2	選

[授業の目標]

1. 歌唱指導により、より良い発声と、歌詞の内容をよく把握してより良い表現をできるようにする
2. バロックから近代の音楽の歴史と作曲家、作風の理解

[授業の内容] すべての内容は、学習・教育目標 (A) の<視野>に対応する。

前期

- 第 1 週 教科書の内容紹介、1 年間の授業の流れ
- 第 2 週 歌唱指導、発声について、正しい姿勢と腹式呼吸について、西洋音楽史の流れについて
- 第 3 週 歌唱[おおシャンゼリゼ]Baroque 音楽について
- 第 4 週 歌唱[翼を下さい] ヘンデル「ハーブ協奏曲」作曲家、作品を解説、CD 鑑賞后感想文提出
- 第 5 週 「My Way」Bach[トッカーターとフーガ]
- 第 6 週 「Yesterday」古典派の音楽
- 第 7 週 [Sound of Music] モーツァルトについて
Sym.40
- 第 8 週 「エーデルワイス」Beethoven Sym9
- 第 9 週 Musical について[Sound of Music]内容紹介、
Video 鑑賞
- 第 10 週 Video 鑑賞[Sound of Music]
- 第 11 週 Video 鑑賞[Sound of Music] 感想文提出
- 第 12 週 「野ばら」、ロマン派の音楽
- 第 13 週 「夜空ノムコウ」Schubert「魔王、野ばら、
ます他」
- 第 14 週 「未来へ」 ショパン作曲「子犬のワルツ、革命、
英雄ポロネーズ」他
- 第 15 週 前期末テスト

後期

- 第 1 週 歌唱「赤とんぼ」、交響詩 R. シュトラウス交響詩「ツァラツストラかく語りき」
- 第 2 週 「トゥナイト」、プッチーニ オペラ「蝶々夫人」の解説
- 第 3 週 Video 鑑賞 オペラ「蝶々夫人」
- 第 4 週 Video 鑑賞 オペラ「蝶々夫人」感想文
- 第 5 週 「星に願いを」、ラフマニノフ「ピアノ協奏曲 2」
- 第 6 週 「時代」、近代の音楽について //
- 第 7 週 「White Christmas」、ドビッシュー「夢・月の光・沈める寺」
- 第 8 週 「メモリー」、ラヴェル「夜のガスパール」
- 第 9 週 「浜辺の歌」、ガーシュイン「ラブソディー インブルー
- 第 10 週 「Love Love Love」、西洋音楽史の流れについて
- まとめ
- 第 11 週 「美女と野獣」 ギター名曲集「アランフェス協奏曲」
- 第 12 週 「アニー・ローリー」、J.ウィリアムズ「スターウォーズ」組曲
- 第 13 週 1 年間勉強した歌の総練習
- 第 14 週 歌唱テスト
- 第 15 週 学年末テスト

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
音楽(つづき)	平成18年度	阿部 浩子	1	通年	2	選

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発声についてよく理解し積極的に声を出せる 2. リズミカルな曲の楽しさを表現して歌える 3. 歌詞の内容をよく理解し表現豊かに歌える 4. バロック、古典派、前期ロマン派の西洋音楽史の流れを把握し、理解する 5. 各時代の時代背景、音楽的内容について理解する 6. 各時代の作曲家について理解する (Bach, Haendel, Mozart, Beethoven, Schubert, Chopin) 他 7. 各時代の作品について理解する 8. ミュージカルについて理解する 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 交響詩の形態について理解する 2. オペラについて理解する 3. 後期ロマン派、近代の音楽について流れを把握し理解する 4. 時代背景、音楽的内容について理解する 5. 作曲者について理解する (R. シュトラウス、プッチーニ、ラフマニノフ、ドビュッシー、ラヴェル) 6. 作品について把握する 7. 正しい発声に基づいて、リズム音程を把握した上で、歌詞の内容をよく理解し、表現豊かに歌える
<p>[注意事項] 歌唱にあたっては、姿勢を正しくし横隔膜を下げ、お腹を膨らますようにして息を吸い込み、横隔膜や腹筋で支えて声を出す。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 中学終了程度</p>	
<p>[レポート等] 想像力、表現力をつけるため、CD、ビデオ鑑賞の感想文の提出、ノート提出</p>	
<p>教科書：「新 高校の音楽1」 山本文茂 他8名著(音楽の友社) および配布プリント 参考書：</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準] 前期末・後期末の2回の定期試験および感想文、ノート提出、実技テスト等をもとに、学習への取り組み姿勢を考慮して評価を行う。</p> <p>[単位修得要件] 上記学業成績で、60点以上修得すること。</p>	

授業科目名	開設年度	担当教官名	学年	開講期	単位数	必・選
書道	2006	山田 順子	1	通年	2	選

[授業の目標]

書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てると共に、感性を豊かにし、書写能力を高め、表現と鑑賞の基礎的能力を伸ばす。

[授業の内容] すべての内容は、学習・教育目標（A）の<視野>に対応する。

前期後期を通じて、授業開始15分間ペン習字を取り入れる

前期

- 第 1 週 ガイダンス 道具について
- 第 2 週 書写と書道
- 第 3 週 楷書の学習 中国・唐代の書家について
- 第 4 週 臨書 九成宮保醴泉銘
- 第 5 週 臨書 九成宮保醴泉銘
- 第 6 週 臨書 孔子廟堂碑
- 第 7 週 臨書 孔子廟堂碑
- 第 8 週 臨書 雁塔聖教序
- 第 9 週 臨書 "
- 第 10 週 臨書 牛蕨造像記
- 第 11 週 臨書 "
- 第 12 週 臨書 建中告身帖
- 第 13 週 臨書 "
- 第 14 週 楷書創作学習
- 第 15 週 楷書創作学習

後期

- 第 1 週 行書の学習 東晋の「蘭亭序」（王羲之）について
- 第 2 週 臨書 蘭亭序
- 第 3 週 臨書 蘭亭序
- 第 4 週 臨書 蘭亭序
- 第 5 週 臨書 蘭亭序
- 第 6 週 臨書 平安の空海・風信帖
- 第 7 週 臨書 風信帖
- 第 8 週 臨書 風信帖
- 第 9 週 臨書 風信帖
- 第 10 週 行書の創作学習
- 第 11 週 行書の創作学習
- 第 12 週 漢字仮名交じり書（調和体）の学習
- 第 13 週 漢字仮名交じり書（調和体）の学習
- 第 14 週 漢字仮名交じり書（調和体）の学習
- 第 15 週 漢字仮名交じり書（調和体）の学習

授業科目名	科目コード	担当教官名	学年	開講期	単位数	必・選
書道(つづき)	10286	山田 順子	1	通年	2	選

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. 楷書の学習</p> <p>1 楷書の成立と基本用筆について理解する</p> <p>2 臨書を通し古典の特徴や書風を理解する</p> <p>3 創作より、古典の書風と自己の個性を調和させ表現する</p> <p>2. 行書の学習</p> <p>1 行書の成立と基本用筆について理解し、楷書との違いを理解する</p> <p>2 蘭亭序の臨書を通し、その字体の持つ流動美を把握する</p>	<p>3. 漢字仮名交じりの書</p> <p>自分の好きな言葉を、漢字と仮名の調和を大切にしながら＜私らしく＞表現し、作品製作をする</p> <p>4. ペン習字</p> <p>日々の実用書体として、基本点画をしっかり練習し、文字の筆順の原則、結構の原理に基づいて書くことができる</p>
<p>[注意事項]</p> <p>古今の名跡に接し鑑賞することは、目習いとも言い、視覚的感受性によってその作品を深く味わうこと。臨書とは、古典に基づく基本的な点画や線質の表しかた観て真似て書くこと。創作は、そこから感じる各々の個性を採り入れながら作品を作り出すこと。一件単純な作業の繰り返しであるが、コツコツと学習し努力する姿勢を忘れず、授業に取り組んでほしい。最初の授業に中学校まで使用していた書道用具を持参下さい。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>小・中学校で培われてきた書写力。</p>	
<p>[レポート等] なし</p>	
<p>教科書：「高校書道」(大阪書籍)</p> <p>参考書：「高校硬筆の練習」小竹光夫ほか2名著(教育出版)</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>年2回の期末試験結果はもちろんのこと、それより重視するのは、提出作品、出席日数、授業態度、持ち物チェック等総合的に評価する。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>上記の知識や能力とで、60点以上修得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
電気電子工学序論	平成18年度	鈴木昭二・北村・奥田・ 川口・西村・奥野	1	前期	1	必

[授業の目標]

この授業は電気電子工学に対する導入のためのものであり、5年間で学ぶ電気理論への関心を高めるとともに、ものづくりを通して技術者として何を学ぶべきか、どうあるべきかを考える習慣を身に付けることを目的とする。

[授業の内容]

全ての内容は、学習・教育目標(B) <基礎> <専門> に対応する。

第1週 電気電子工学科の教育目標、カリキュラムなどについて
 第2週 電気関係の資格について、発電所から家庭まで
 第3週 関数電卓の使い方 基礎(1)
 第4週 関数電卓の使い方 基礎(2)
 第5週 電子工作入門 抵抗
 第6週 電子工作入門 コンデンサ、コイル
 第7週 電子工作入門 電子デバイス
 第8週 中間試験

第9週 電子工作 ハンダ付け
 第10週 電子工作 簡単な回路製作
 第11週 テスターの原理・テスターの製作
 第12週 テスターの製作
 第13週 テスターの製作・動作確認
 第14週 関数電卓の使い方 応用(1)
 第15週 関数電卓の使い方 応用(2)

[この授業で習得する「知識・能力」]

1. 電気電子工学科の教育目標を認識する。
2. 関数電卓の基本的な機能が利用できる
3. 関数電卓の応用的な機能が利用できる。
4. 基本的な電子部品の機能を理解している。
5. 基本的な電子部品に関する簡単な計算ができる。

6. 簡単な電子工作ができる。
7. テスターの原理を理解している。
8. テスターを利用した簡単な測定ができる。

[注意事項] 電気電子工学を学んでいくために必要な考え方を学習する基本的な講義であり、積極的に授業に参加し、自ら学習する態度を身に付けてほしい。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 中学の数学、理科に関する基礎的な知識

[レポート等] 理解を深めるため、適宜課題を課しレポート提出を求める。

教科書：「電気電子工学入門」 電気電子工学科

[学業成績の評価方法および評価基準]

前期中間、前期末試験の平均点を50%、提出されたレポートの評価点の平均を50%として評価した点数で評価する。

[単位修得要件]

学業成績で60点以上を取得すること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
電気電子製図	平成18年度	伊藤 保之	1	通年	2	必

[授業の目標]

工業製図の基礎として製図技法の学習は重要である。電気電子製図では電気・電子関係の図面や情報・通信機器の回路図面の製図法について学習し、製図に関する基礎知識と製図技法の基本を習得することを目的とする。

[授業の内容]

すべての内容は、学習・教育目標（B）<専門>に対応する。

前期

製図の基礎（ ）

- 第1週 電気電子製図の概要、標準規格と電気電子製図に関する規格、製図用具と製図用紙および余白の取り方
- 第2週 線の種類と使用法、製図用文字・文章、電気電子関係の図記号と電気電子用図記号および共通図記号
- 第3週 製図実習：製図機械と製図器具の使用法
- 第4週 製図実習：電気電子用（共通）図記号の製図
- 第5週 平面図形の基礎、円錐曲線と楕円の作図
- 第6週 双曲線と放物線の作図、正弦波交流と正弦曲線の作図
- 第7週 うずまき線、サイクロイドとトロコイド曲線
インポリュート曲線と歯形曲線
- 第8週 前期中間試験
- 第9週 投影法と正投影図
- 第10週 軸測投影図・斜投影図・透視投影図およびテクニカルイラストレーション

製図の基礎（ ）

- 第11週 製作図の尺度、図形の表示方法
- 第12週 断面図形による表示方法
- 第13週 製図実習：Vブロックの製図
- 第14週 製図実習：避雷針の製図
- 第15週 図形の省略と特別な図示方法、寸法と寸法記入法、寸法公差とはめあい

後期

- 第1週 表面粗さと面の肌の図示法、仕上記号
- 第2週 溶接法と溶接記号
- 第3週 材料記号、鉄鋼・非鉄金属材料、アルミニウムと銅の合金材料
- 第4週 図面の種類と元図の書き方、スケッチ図面の書き方

機械要素

- 第5週 ねじとねじの種類、ねじの図示と表示方法
- 第6週 製図実習：ボルト・ナットの製図
- 第7週 製図実習：植込みボルト・小ねじの製図
- 第8週 後期中間試験
- 第9週 軸と軸受けの種類、歯車と歯車の種類、バネとバネの種類、軸継手の概要
- 第10週 製図実習：フランジ形固定軸継手の製図

電気電子関係の製図

- 第11週 電気関係の図面と図記号、発電所・変電所の設備と接続図、電力系統図
- 第12週 電子・情報・通信機器の接続図とプリント配線図
- 第13週 製図実習：電気回路の接続図の製図
- 第14週 屋内配線図と計装用記号、配管図と装置図
- 第15週 製図実習：住宅電灯配線図と工場動力配線図の製図

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
電気電子製図(つづき)	平成18年度	伊藤 保之	1	通年	2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>製図の基礎()</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 製図の概要と標準規格および電気電子製図規格と製図用具・製図用紙について説明できる。 2. 製図で使用する線の種類と用途および文字の種類と電気電子関係の電気電子用図記号について説明できる。 3. 製図機械と製図用具を正しく使用することができる。 4. 電気電子用図記号の共通図記号を正しく書くことができる。 5. 平面図形と各種の円錐曲線および正弦波曲線を作図することができる。 6. うずまき線、サイクロイド曲線・トロコイド曲線・インポリュウト曲線を理解し、歯形曲線について説明できる。 7. 投影法と正投影図, 第一角法の投影法と第三角法の投影法を比較し説明できる。 8. 軸測投影図・斜投影図・透視投影図とテクニカルイラストレーションについて作図することができる。 <p>製図の基礎()</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 製図における尺度、図形の表示法、断面図形表示法について説明できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 2. 製図器具を使用して、第3角法による簡単な基礎製図を正しく書くことができる。 3. 図形の省略と特別な図示方法、寸法と寸法の記入法、寸法公差とはめあいについて説明できる。 4. 表面粗さと面の肌の図示法および仕上げ記号、溶接法と溶接記号につき説明できる。 5. 材料記号、図面の種類と元図およびスケッチ図の書き方について説明できる。 <p>機械要素</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ねじとねじの種類、軸と軸受け、歯車、バネについて説明できる。 2. ボルト・ナット・小ねじの基礎製図とフランジ形固定軸継手の基礎製図を書くことができる。 <p>電気電子関係の製図</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 電気関係の図面と図記号、電子・通信機器の接続図とプリント配線図について説明できる。 2. 屋内配線図・計装用記号・電気配管図について説明できる。 3. 電気電子用図記号と電気回路図・電子回路図の製図および住宅用屋内配線図と工場動力配線図を書くことができる。
<p>[注意事項] 社会の変革にともない、工学にたずさわる者の教養として、電気回路・電子回路, 計装装置などの接続図の読図および各種製図法の基本的事項を理解し、習得していることが必要である。製図とは、製図用具を使用して規格に従った図面を「正確」・「明りよう」に書くことをいう。工業技術の基本であるため積極的な取り組みが大切である。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 製図の基礎()では平面図形と円錐曲線の学習と共に数学の幾何学を復習して置くこと。また、製図の基礎()と電気電子関係の製図では製図資料と教科書等を参考にして、十分に時間を賭けて積極的に「正確」・「明りよう」な製図の図面を書き上げる努力をすること。</p>	
<p>[レポート等] 基礎製図では、演習課題を3枚程度と「製図練習ノート」。電気電子製図では、機械要素の製図課題を含め8枚程度の製図課題を与える。</p>	
<p>教科書：[電気製図] 文部科学省検定済教科書(実教出版), 「製図練習ノート」長澤 貞夫 著(実教出版) 参考書：「図学と製図」幸田 彰 著(培風館), 「電気製図」福嶋 美文 著(朝倉書店)</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>中間試験、前期末試験の2回の平均点を4割、製図練習ノートの評価点を1割、製図課題の評価点を5割として平均点で評価する。ただし、それぞれの成績が60点に達していない者には再試験を課し、再試験の成績が該当する試験の成績を上回った場合には、60点を上限としてそれぞれの試験の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
情報処理	平成18年度	渥美 清隆	1	通年	2	必

[授業の目標]

「情報」の概念や性質を理解し、情報化社会で生活する上で必要なコミュニケーション技術、トラブル制御・回避術を習得する。また、関連する技術および法律の概要を知る。「情報」の概念や性質を理解し、情報を取り扱うための装置や手法について、科学的に理解する。また、スライドを用いた発表を行うことで、発表に必要な準備や態度を習得する。

[授業の内容]

前期

第4週、第5週、第7週、第9週、第10週、第14週、第15週は<技術者倫理>、第12週および第13週は<発表>、その他は<基礎>の学習教育目標に対応する。

- 第1週 ガイダンス、ログオンとログオフ、パスワード再設定、メールクライアントの設定
- 第2週 IP リーチャビリティと DNS
- 第3週 メール配送サービスとウェブサービス
- 第4週 タッチタイプ実技試験、インターネット・ユビキタス社会における攻撃と防御
- 第5週 電子メールのトラブルとマナー
- 第6週 メールングリスト演習
- 第7週 タッチタイプ実技試験、インターネット上の犯罪
- 第8週 中間試験
- 第9週 インターネットコミュニティ上のトラブルとマナー
- 第10週 インターネットコミュニティ演習
- 第11週 情報の検索・収集と信憑性判定
- 第12週 収集した情報の分析と報告書の書き方
- 第13週 タッチタイプ実技試験、情報発信の責任 <発表>
- 第14週 携帯電話に関するトラブルとマナー
- 第15週 タッチタイプ実技試験、適用される法律の整理

後期

第5週および第6週は<発表>、その他は<基礎>の学習教育目標に対応する。

- 第1週 ガイダンス、2進数、10進数、16進数の相互変換
- 第2週 論理演算、算術演算、IP アドレスとサブネット
- 第3週 パソコンのハードウェア構成、CPU 内の動作
- 第4週 オペレーティングシステム、ミドルソフトウェア、アプリケーションソフトウェア
- 第5週 コンピュータの歴史とオペレーティングシステムに関する調査とスライド作成演習
- 第6週 グループ発表
- 第7週 プログラム開発の概要と手順
- 第8週 中間試験
- 第9週 流れ図演習(変数の変化を追う)
- 第10週 流れ図演習(課題から流れ図を作成)
- 第11週 入出力のプログラム
- 第12週 フロチャートからプログラムに変換(課題1)
- 第13週 フロチャートからプログラムに変換(課題2)
- 第14週 プログラムから流れ図に変換
- 第15週 課題プログラミング

(次ページにつづく)

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
情報処理(つづき)	平成18年度	渥美 清隆	1	通年	2	必
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>2, 3, 5, 8, 13 は<技術者倫理>, 6, 24 は<発表>, その他は<基礎>の学習教育目標に対応する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 鈴鹿高専に設備する情報教育端末の操作に習熟する。 2. 「情報」が自分と社会に及ぼす影響を知る。 3. 「ユビキタス社会」の利点と課題を知る。 4. タッチタイプが出来る。 5. マナーに沿ってメールを書くことが出来る。 6. マナーに沿ってインターネットコミュニティ(メーリングリスト, チャットなど)に参加することが出来る。 7. トラブル遭遇時に, 支援者に対して適切に情報開示が出来る。 8. 情報収集などによって得られた情報の信憑性を評価出来る。 9. 情報収集などによって得られた情報を, 表計算ソフトウェアなどを用いて分析できる。 10. 提供された情報を理解し, 必要なキーワードを抽出出来る。 11. IP リーチャビリティ, DNS の技術的仕組みを知る。 12. ウェブサービス, メールサービスの技術的仕組みを知る。 13. インターネットおよび携帯電話のトラブルの事例を知る。 14. 情報に係る法律の概要を知る。 		<ol style="list-style-type: none"> 15. パソコンの基本的な構成, 性能が分かる。 16. 2進法, 10進法, 16進法の相互変換および論理演算, 算術演算ができる。 17. IP アドレスに関するネットマスクの意味が分かる。 18. 基本ソフトウェア, ミドルソフトウェア, アプリケーションソフトウェアの違いを知る。 19. 連続, 分岐, 繰り返しを理解して, 流れ図を書くことが出来る。 20. 流れ図から変数の変化を追跡することが出来る。 21. 課題が与えられた時, それを解決するための流れ図を書くことが出来る。 22. 流れ図からプログラムが記述できる。 23. プログラムから流れ図が記述できる。 24. スライド発表を通して, 発表のための準備と態度を知る。 				
<p>[注意事項]</p> <p>本科目は講義と演習の組み合わせによって実施するが, 中間, 期末試験を除き全て情報処理センター演習室で実施する。オフィスソフトには StarSuite8(OpenOffice2.0)を利用する。Microsoft Office 2003 の利用も認める。プログラミング言語は C 言語とし, 無償で利用できる Microsoft 32-bit C/C++ Standard Compiler を利用する。</p>						
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>中学校技術家庭科にて, MS-Windows の基本的なマウスオペレーションおよびワードプロセッサの基本的な操作(漢字入力とコピーアンドペースト)を習得したことを前提とする。未修得者については講義時間外に補習を行う。</p>						
<p>[レポート等]</p> <p>タッチタイプの実技試験を 4 回行う。また, 随時, 小テスト, レポートなどの課題を課す。</p>						
<p>教科書: ネットワーク社会の情報倫理(近代科学社), ネットワーク社会における情報の活用と技術(実教出版)および学習ノート, 国語表現活動マニュアル(明治書院), はじめてのプログラミング C 言語編(実教出版), 配付資料</p> <p>参考書: C 言語によるプログラミング(オーム社), オープンガイドブック OpenOffice2.0(グッデイ), Microsoft Office2003 を使った情報リテラシーの基礎(近代科学社)</p>						
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>実技試験, 小テスト, レポートなどの評価を 30%, 授業時間中に行う口答試験の評価を 10%, 中間, 期末の試験の結果を 60%として, 加重平均し 100 点満点換算した結果を学業成績とする。再試験は実施しない。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で 60 点以上を取得すること。</p>						